

令和4年度第20回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

| |
|--|
| 【日 時】 令和4年11月15日（水） 18時30分 ～ 19時30分 |
| 【場 所】 船木ふれあいセンター |
| 【出席者】 ○篠崎市長 船木地区コミュニティ推進協議会会長 : 長谷川 典彦 まちづくりサークル会長 : 田村 敦義 船木地区自治会連合会会長 : 和田 嘉之 宇部市環境衛生連合会船木支部支部長 : 宮野 貢 栽培屋 さと 経営者 : 佐藤 美加 ○総合政策部 ○事務局（広報広聴課、船木ふれあいセンター、地域支援員） |
| 【概 要】 1 開会 2 出席者自己紹介 3 参加者と市長との意見交換 4 閉会 |
| 【意見交換・懇談】 |
| ○山根川水害対策について 【コミュニティ推進協議会会長】 ・昨年4月発行の「有帆川洪水ハザードマップ」に示されているが、有帆川氾濫時は市街地を流れる山根川に集中する。従って、船木市街地の洪水を早く解消させるためには、山根川の水流通確保が重要であるが、長年にわたり土砂等が堆積し、背の高さ程の葦が密集している。また、令和6年12月稼働予定のメガソーラが、流域の船木ゴルフ場跡に建設中で、設計雨量を超える豪雨もあり得る為、早急に新幹線下～大野井堰～有帆川までの約1.4kmの浚渫をお願いしたい。 【市長】 ・昨年4月26日の市政懇談会でもご意見を頂いており、県に要望してきたが、今年度10月6日の要望書を受け、県に再度要望したところ、県が現地確認をし、令和5年度予算化を考えているとの回答であった。ただし、抜本的な解決ではないので、浚渫後の課題については、引き続き協議していきたい。 |
| ○見守りセンサー設置初期費用の補助金について 【コミュニティ推進協議会会長】 ・「各自治会のゆるやかな見守り体制」と「船木あったか見守りネットワーク」の2本柱で見守りをすすめてきたが、コロナ禍での脱対面等の環境変化により、見守りツ- |

ル（安心コールサービス・安否確認センサー・ハローライト等）促進キャンペーンを実施する事により一定の成果を得た。今後、独居高齢者世帯（船木：151世帯 宇部市：約7,500世帯）に対し、現行の認知症対応GPS補助（2万円上限）に追加し、見守りセンサー設置補助（2万円上限）をお願いしたい。

【市長】

- ・ひとり暮らしの見守りについて、どのような仕組みが良いのか現在検討している。受益者負担の問題もあり、安否確認センサーも含めて新しい制度を充実させたい。

○防災に強いまちづくりについて

【自治会連合会会長】

- ・現在、船木では43自治会から防災委員を選出しているが、高齢者が多く、この防災委員で対応できるのか疑問である。災害時にどれだけ人を助けられるか、後継者の問題もある。そこで、小中学生の関りについて提案したい。例えば、中学校の部活動として「防災部」を作ってもらおう。東京の方で危険箇所がある所には、中学校に防災部がある学校がある。高齢化が進む中、経験が積み、地域の防災リーダーになれる可能性がある。
- ・コミュニティスクールでは、子どもたちを学校だけでなく、地域の一員としても活動してもらおうよう取り組んでおり、防災リーダーとして恒久的な地域貢献ができると考えている。
- ・防災倉庫については、お米・備品も入っており、船木小学校に設置してもらっている。
- ・船木小学校から、「船木の防災を知りたい」との要望があり、去年、今年と防災の授業を実施した。小学生の授業で備蓄品等を実際に活用できればと思う。

【市長】

- ・中学生の「防災部」の提案は、防災意識を持たせるためにも良い考えである。
- ・子どものうちから防災意識を持つことは大事で、座学だけではなく「アトラクション 防災訓練」等の他市の事例も研究し、子どもたちが学びやすい、取り組みやすい防災について、今後、教育委員会と協議していきたい。
- ・本市でも、避難拠点要員が避難所に着く前に一気に避難指示が出るという、かつてないことが起こった。「安心・安全」を確保するためには、地域の力も必要である。

○農業者の規模・経営内容に見合った支援について

【栽培屋 さと 経営者】

- ・宇部市は小規模農家が多く、国や県の支援・補助策はあっても、面積や出荷量等の対象規模が該当しない場合が多い。県内の他の市町村では国の支援策に独自の追加支援を行っている例がみられるが、宇部市は少ないと感じる。
- ・新規就農者や農業法人に対する支援は手厚いが、長年にわたり農業経営を維持している農家に対する支援が乏しい。大型機械やスマート農業の導入など、大規模化を推進する流れがあるが、これらを導入して利益を上げる農家が宇部市にどれだけあるか疑

問に思う。経営維持のための機械更新や省力化のためのコンパクトな機械など、経営規模に見合った用途に活用できる支援がほしい。

- ・ 専業農家など積極的な農業経営を行っている農家に対する支援と、農地を維持管理している自給的農家に対する支援は異なると考える。農家ひとづくりではなく、必要なところに必要な策の検討してほしい。

【まちづくりサークル会長】

- ・ 国、県の方針に基づくものばかりでなく、宇部方式となる独自性を発揮した政策で小回りの利いた支援をしてほしい。

【市長】

- ・ 令和4年から農林水産振興計画をスタートさせた。「持続可能で稼げる農業」にしていくため、売れるものを作ることや、認定農業者への支援制度等によりバックアップしていきたい。

○北部総合支所移転後の跡地利用について

【まちづくりサークル会長】

- ・ 跡地利用についての提案を求められているが、「現建物を残す」「残さない」などの様々な情報がある中では、具体的な提案が難しい。
- ・ 提案をするとすれば、船木には災害等の緊急時における避難場所もなく、市中心部のように大型商業施設やホテルなどもなく、神社仏閣へお願いするしかない状況である。指定のふれあいセンターも狭く、更に中学校や小学校への避難は間に河川があり、高い所にあるため、高齢者の避難が難しい。
- ・ このような状況から、災害避難場所と「青空市場」「若者が遊び・学べるスペース」等の様々な機能を持ち合わせた、地域の住民が集える、駐車場の有る、屋根付きの場所がほしい。駐車場を中心にまちづくりを考えていくと良いと思う。

【市長】

- ・ 現庁舎の解体は、令和5年度に事前調査や設計を行い、令和6年度に解体する予定である。
- ・ 先程「防災の拠点」等としてのご意見もあったが、この機会に様々な意見をいただきたい。学生等からも意見を聴き、北部6地区の中でも歴史が古い「船木地区」のまちづくりをどうするのか考えていきたい。

○エレベーターの設置について

【まちづくりサークル会長】

- ・ ふれあいセンターの利用者や避難者には高齢者が多い。ふれあいセンターにエレベーターを設置してほしい。

【市長】

- ・ 優先順位をつけ、今後検討していく。